

イダニャ・ア・ノヴァ市国際会議について（報告）

会議名称：「創造都市と音楽」

開催地：イダニャ・ア・ノヴァ市（ポルトガル）

開催日程：2015年2月27日（金）・28日（土）

主な参加都市：ボローニャ市、セビリア市、マンハイム市、浜松市

イダニャ・ア・ノヴァ市について

ポルトガルの首都リスボンから北東に 260km、スペインとの国境にある人口 1 万人ほどの都市。伝統楽器「アドゥフェ」や 2 万人以上の誘客があるトランスミュージックの祭典「ブームフェスティバル」などの文化資産を持つ。

主なプログラムと要旨

ユネスコ創造都市ネットワーク加盟都市の事例発表	
登壇者	Mauro Felicori（ボローニャ） Jose Lucas Maza（セビリア） Rainer Kern（マンハイム） 根本敏行（浜松）
要旨	<p>各都市による事例発表。「From Industrial to Creative Milieu-Tradition, Instruments and Deployment of MUSIC in HAMAMATSU-」のタイトルで浜松市の事例を紹介した。浜松市以外の各都市の発表要旨は下記のとおり。</p> <p>（マンハイム）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織（アンバサダー ディレクター、プロジェクトマネージャー マネジメントチーム）で加盟を進めてきた。加盟に向けては、スローガンを市民に持ってもらう撮影するなど、多くの市民を巻き込んで広報を進めた。 ・ネットワークに加盟して何を実施するかが大事になる。Network が”Not work”になってはだめ。 <p>（ボローニャ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボローニャには、関係する作曲家や指揮者が大勢いるが、ユネスコの考えとしては、「伝達」だけではなく、未来につないでいくことが大事と考えている。 ・墓地でコンサートなど思いもよらない場所でコンサートを実施した。こういう取組みが周辺の街にも広がっている。 ・レジデンスなどの取組みも始めている。 <p>（セビリア）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな音楽分野でPR動画を作成している（今回の発表は、ほぼその動画の紹介）。 ・アドゥフェのリズムは、フラメンコのリズムとも似ている。

ユネスコ創造都市ネットワーク加盟都市によるラウンドディスカッション	
登壇者	<p>Carlos Medeiros (イダニャ・ア・ノヴァ ユネスコ加盟申請会議会長) Mauro Felicori (ボローニャ) Jose Lucas Maza (セビリア) Rainer Kern (マンハイム) 根本敏行 (浜松)</p>
要旨	<p>ラウンドテーブルのテーマとしては、(1)各都市でやっていること、(2)イダニャの申請に対するアドバイスの2点。特筆すべき事項は下記のとおり。</p> <p>(ネットワークのあり方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サブネットワークでスカイプ会議等を実施していることをマンハイムが説明したところ、モデレーターの Medeiros 氏からインターネット上での情報交換の必要性について質問がなされた(ブラザヴィルやボゴタが来られなかったこともあったため、ここで質問したと思われる)。これに対し、マンハイムの Kern 氏からはインターネットが使えない国もあるので、対面の方がよいという意見が出た。 <p>(イダニャ・ア・ノヴァの申請についてのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブームフェスティバルの取組みは、マンハイムにも必要である。マンハイムでもブームフェスティバルのことを強く紹介していきたい。音楽は世界標準のものであり、言語が通じなくても分かり合えるので、小さな都市でもネットワークに十分貢献できる。また、イダニャは食文化と音楽を組み合わせることもできる。(マンハイム Kern 氏 コメント要旨) ・ブームフェスティバルの運営方法は、他都市の参考になるし、規模が小さい市にとっては創造都市モデルとなる可能性もある。ただし、文化に経済的効果を持たせることは重要であることを考えなければならない。伝統的な楽器(イダニャではアドゥフェ、ボローニャではオカリナ)に焦点をあてて発展させることができる。(ボローニャ Felicoli 氏 コメント要旨) ・市民の意見が必要となる。ネットワークには違う国の違う要素が入ってくるのが重要。イダニャは、創造都市ネットワークに対して他都市とは違った協力ができる。(セビリア Maza 氏 コメント要旨) ・日本では人口減少で高齢化しており、イダニャ・ア・ノヴァを参考にできる。また、サイズは関係なく、何が美しいか、どういう感情であるかが重要であり、若者はネットを通じて良し悪しを判断する。ネットワークに加盟することで、アドゥフェも世界中に知られるようになる。(根本)



このほか、同市の音楽資産に関する民俗学者やアートマネージャーの講義、コンサートなど、比較的市民に向けた内容のプログラムが開催された。

今後の見通し

イダニャ・ア・ノヴァ市がユネスコへの申請する際に、何らかの支援を求められることが想定される。交流実績で評価されるならば、今回の会議に参加したこと自体が支援になる可能性もある。他の音楽都市とともに、同市の動向に注視する。